



天歩

No.159

2018年9月

これからもこの地で。

7月に発生した大雨により西日本に全国各地で甚大な被害が発生しましたが、無茶々園のある愛媛県南予地方でも至るところで深刻な水害や土砂崩れが起きました。押し流され泥にまみれた青い果実。あるはずのないモノラックや折れたスプリンクラーが転がる川。轟々と大きな音を立てて流れる水。道路を塞ぐ想像を超えた土砂。雨がやんだ明浜は、驚くばかりで言葉にできない光景が広がっていました。

あれから2か月が経ち、無事だった園地では小さな果実が顔を出し太陽の光を浴びながら少しずつ大きくなってきています。土砂崩れ後の赤茶けた土の上にも草が生え始め、自然のたくましさを感じずにはられません。農家はまだまだ汗が噴き出すほどの日差しの下、来るべき収穫に向け摘果に励みつつ「そろそろ一雨ほしいのお」とあれほど痛めつけられた雨を欲する毎日です。猛威と恵み。自然の持つこの両面を強く感じる夏となりました。

8月末。無茶々園がスタートした明浜町本浦地区の段々畑の一角で集合写真を撮影しました。たくさんの方の励ましの言葉をくださった皆さんに私たちの元気な様子が伝わるように。もう一度苗木を植え、10年後美味しい実をつける樹を育てることができるように。私たちの決意を込めた一枚です。

みかんの結実是一年に一度。今年の収穫はもうすぐそこに来ています。豪雨に加えてカメムシやサビダニの発生も見受けられますが、それもこの夏の出来と受け止めつつ抗いつつ農作業に勤んでいます。

毎年9月の天歩はこの秋からお届けできる柑橘を紹介する特別号です。いつも通りに予約注文を承ることのできる喜びをかみしめながらお届けしました。皆さん、今季もどうぞよろしく願いいたします。



これからもこの地で。みかんをお届けしていきます。

